



(令和元年第7号)

●歴史通信担当 大石よりみなさんへ。

○5月30日 中間

表題 「家久・豊久・以久の関係系図」 「豊久の関連年表」の2点です。

明解なモノが手元へ引き寄せられませんが、一つの資料としてご参考までに送ります。

なお、日向国家久・豊久の史跡巡り(大石、隈元、森、中間)でのリゾートホテル泊は、県内・県外を含めて6月いっぱいには予約を受けないようです。(一泊されますよね。)

○大石アンサー

日向一佐土原一家久一豊久一伊集院忠棟一庄内の乱一忠真そして島津家の毒殺騒動の張本人忠恒その犠牲者・信久…

すべてが4男の家久に絡んでいますね。中間さんの興味を引く戦国歴史実ではありませんか?

この頃は『隼人起つ』を読んでから、更に1000年前の南九州(隼人・熊襲)の時代も興味深々です。貴重な資料ありがとうございます又楽しみです。コロナ騒ぎももう辟易します。

『日向史跡巡り』は後一人女性の永野和枝さんも行きたいそうですが、中間さんのクルマは5人乗れますか?ホテルは近くのビジネスでもかまいませんけど。7月になりますか?

なら、その前に『肥薩方面の旅(人吉)』が先になるかもしれません。

○くまタツアンサー

昨日、宮崎県は数県と一緒に厳しい態度をとるようなことがニュースでありましたね。

6月中は宿泊ができないなどというのは、その辺があるのでしょうかね。

いずれにしても、時期を待つしかないですね。クマモト タツオ

○大石

JRで宮崎に行ったら帰りに小林市で降りて本田哲郎さん達の建てた堤市?の豊久一族の碑を見ますか?

○西山アンサー いよいよ本格的に史料収集ですね

元気いっぱい励んでください。期待していま～す

○クマタツ 系図も年表もよくまとまっていたいい資料なので、印刷しました。

「宮崎の家久・豊久の足跡を訪ねる旅」のいいお供になります。ありがとうございました。クマモト

○大石から本田氏へ

・相良氏に興味があって、パソコンを覗きながら、肥薩線を辿っていました。

今、司馬遼太郎の『街道をゆく3』肥後を読んでいるのと、隼人・熊襲の足取りにも興味もあって。

どこかの病院の院長先生の「プライベートルーム」から相良清兵衛という人物が人吉でクローズアップされている。云々・・・なぜか固有名詞に惹かれる癖があるのか、いつのまにか読み続けていたら本田さんのライフワーク『家久・豊久』の母方のルーツがいろいろ出てくるのでコピーしてみました。おそらく本田さんは既知のことかも知れませんが・・・

添付してみますのでよろしく・・・・・・・・

○伝説話とはなっていますが、私はかなり史実に沿った部分が多いと思いました。

それでも話が錯綜していて理解しにくい部分があったので、自分なりに読み込んで手書きですがまとめてみました。読めるか読めないかぎりぎりですが、興味があれば読んでみてください。

前にも添付したと思う系図と一緒に送ります。 それにしても面白い話です。
大石くんの最近の人吉・相良氏への傾倒ぶりが見つけ出した傑作だと思います。

クマモト

○西山コメント

私の手に負える領域を遥か超えています。時空を超えて同じ時代にいる感覚ではないでしょうか？
史料と想像で、創造してください。

○本田コメント

メール、拝見しました。 良く、探求されておられますね？！

実は、このところ、約1年前から、携わっている地元の永吉小学校創立150周年の「記念誌」の編集長のボランティア仕事を承っており、今、その製本化（2000部）と配布、発送等について、ここ数日掛かりきりの状態です。

すぐに、御返事したいところですが、少々時間をいただきたいと思います。よろしく、御容赦願います。

貴重なお話ですが、以前から、聞いていることもあり、良く確認してみます。

よろしく、御理解ください。 2020, 5, 30, 本田 哲郎

○了解しました。大石アンサー

別にお返事を頂かなくてもいいんです。

単に（ご存知のことと思いますが）こちらは面白い話なので、もしかしてご参考に…と言った感じです。
こう言うのをノンフィクションストーリーと言うのでしょうか。

○本田アンサー

大石、隈元、古市 様

ごめんなさい！！ 昨夜、大石様方にお返事の「打刻」しているうちに、うっかり「送信」をクリックしたのですが、画面が消えてしまい、どうしても「続き」が打刻できませんでしたので、今朝、改めて「書き直す」ためにパソコンを開いたら、いきなり隈元様からのメールを見て、びっくりした次第です。 自分の「操作ミス」で御迷惑を掛けました。

あらためて、以下に、書き加えながら、「続き」を打刻します。 御判読のほど願います。

島津修久様に、出版社社長向原氏、著者の野田幸敬氏を紹介して、何度となく島津修久様の御指導と御指示（ご自身を含む宗本家の氏名の方の生年月日や現職の職務内容はすべて、カットなど）をいただき、さらに推薦文も書いていただきました。

この事で、この「家系図集」も一層、「権威があるもの」になりました。

三木靖先生も本の「帯封」に期待と推薦文を書いていただき、さらに宣伝用のチラシには、御指導いただいた島津修久様のほかに、調所一郎様や永吉島津家の現在の当主島津博之様、さらに小生まで推薦文を書きました。

お陰様でそのチラシなどを私信で知古を得ている歴史家や愛好家又は友人らにご案内しましたところ、小生自身からも桐野作人さん（かねてから知古を得ていました）や作家や知人など26人の方々へも、買っていただきました。（ただ、社長から小生からの紹介者は2割引きの販売価格でした）

お陰様で、この「家系図集」は南方新社の命運をかけた「一大事業」の出版でしたが、今まででも「黒字」結果であると社長から、感謝されています。

鹿児島市図書館など存じている杉元教育長様をお願いして、上下巻とも購入していただきました。（ゆっくりご覧になれるよ！また、小生宅にもありますよ）

この家系図集に、永吉島津家および、その筆頭家老であった本田家の家臣団としての家系図も詳しく掲載されています。

ところで、院長先生の文章ではまず、橋姫の父親の名前は、「本田頼泰」となっていますが、「本田親康」が正しいです。（数か所あり） それに「以久」を「いくひさ」と表現されていますが、「もちひさ」と読みます。勿論、「後島津」として、佐土原が徳川側から島津藩に返還された後に、垂水島津家から佐土原へ行った方です。

さらに、本田誠之助や本田加賀右衛門なども本田血統だろうとの事ですが、確かに本田家ですが、各地にしかも本家筋、分家筋とわかれており、この「家臣団家系図集」でも本田家一族の家系図も、上巻のP386～391まで続いています。

本田姓を名乗る中には、所謂「悪者といわれている本田薫親」も居れば、島津4兄弟の末っ子である永吉島津家の始祖家久もいるのです。大きく見れば、本田一族には変わりはないでしょう。

そのほかは、「相良清兵衛秘話」などは、当地（永吉地区）各地にも流布されている「伝承」であることは間違いないと思われます。このような事が、こちらの見解であります。

とにかく、500年近い史実ではありますが、何が「真実であるか？」はよっぽど確たる一次資料があれば明らかですが、なかなかこれらの資料は定かでないケースが多く、「歴史」を観る立場で、色々な「説」が存在することは必然と思われるます。

その中で、自分としては、いつも言っている事ですが、今の自分がその時の「当事者」であったら、どのように判断するか？、常識的に妥当か？を判断基準と考えて、考察することこそが、歴史の真実に最も近いのではないかと信じています。

勿論、世に出ている各種もの「見解」や「史実と思われる資料」などや通説、定説などを並列的に検討したうえで、自分なりの「結論」を導き出す努力が必要であり、それこそが、「歴史を重んじる」ことになることであろうと思っています。

勝手な見解を述べまして、申し訳ありません。

今後ともよろしく、御指導ください。 2020. 5, 31、 本田 哲郎

○大石さん

「相良清兵衛秘話」明解に読ませる良い資料で、勉強になりました。

貴兄の情報網の豊かさに改めて感心です。

中間

○これはある意味「物語」ですが、相良清兵衛の本当の名前のネット情報を送ります。

別メールで。

○おおいしアンサー

犬童頼兄（いんどう よりもり） 相良清兵衛のこと | げむおた街道をゆく

<https://ameblo.jp/tetu522/entry-11989650514.html>

<https://gamp.ameblo.jp/tetu522/entry-11989650514.html>

○6月1日 クマタツアンサー

犬童頼兄（相良清兵衛）は波乱に満ちた生涯をおくっていますね。

人吉のお医者さんの文にもあるように人吉城歴史館で「相良清兵衛とその時代」という展示会と講座がもたれたという講座が持たれたくらいですから相当な有名人物なのでしょう。

それこそ清兵衛屋敷の地下室に降りてみないとわからないことがあるのでしょうか。 クマモト

○大石あんさー 地下室に井戸があるようです。小さな8畳あるかな。二箇所あるとか？人吉泊まりの旅もいいかもしれません。

○ 地下室の井戸というのはおどろおどろして、いかにもという感じがするし、面白そうですね。
宮崎も人吉もいつになったら行けるのでしょうか。 クマモト

○天下人の夢

○今回は「関ヶ原合戦」までの伏線が詳述されていますが、初めて知ることが多く勉強になりました。
偉い人というのは、昔は身近な人間を後継に据えるためには、一回後継に指名したもので、更なる身近な者に引き継ぐために、あらゆる手段を使って、抹殺したものです。今日の秀吉然り、島津忠棟（家久）しかりです。もっとも現代の政治家も何代にも渡っておボッチャマ育ちの子供、婿などを後継にしていますから庶民の生活から遠いところで政治が行われるようになっていますが・・・。

これまで、島津氏中心でしか見ていなかったのが、秀吉亡き後の家康が天下を狙うようになったいきさつも知ることができました。

このあと天下分け目の「関ヶ原」があるわけで、山本博文氏の絶筆「『関ヶ原』の決算書」を読めば完璧でしょう。

そういう私は、引きこもり自粛中で、未だに本屋にも行っていません。 クマモト

○50代半ばになった秀吉自身が秀頼を本当に自分の子だと思っていたかどうか、

いやそんなことは考えたくないと思ったでしょう。絶対に俺の子だと溺愛したことでしょ。

加藤清正や福島正則は石田三成とそりが合わず、関が原では徳川家康についた。

しかし、家康は徳川家の安泰を図るために清正や正則を取り潰した。

西鶴であったと思いますが、せつせと銀（お金）を貯めるのは、子や孫に残すためだと言っています。でも多くの場合、親父苦勞する、倅樂する、孫乞食すると言います。

織田も豊臣も一代で滅んだが、徳川幕府は15代続いた。

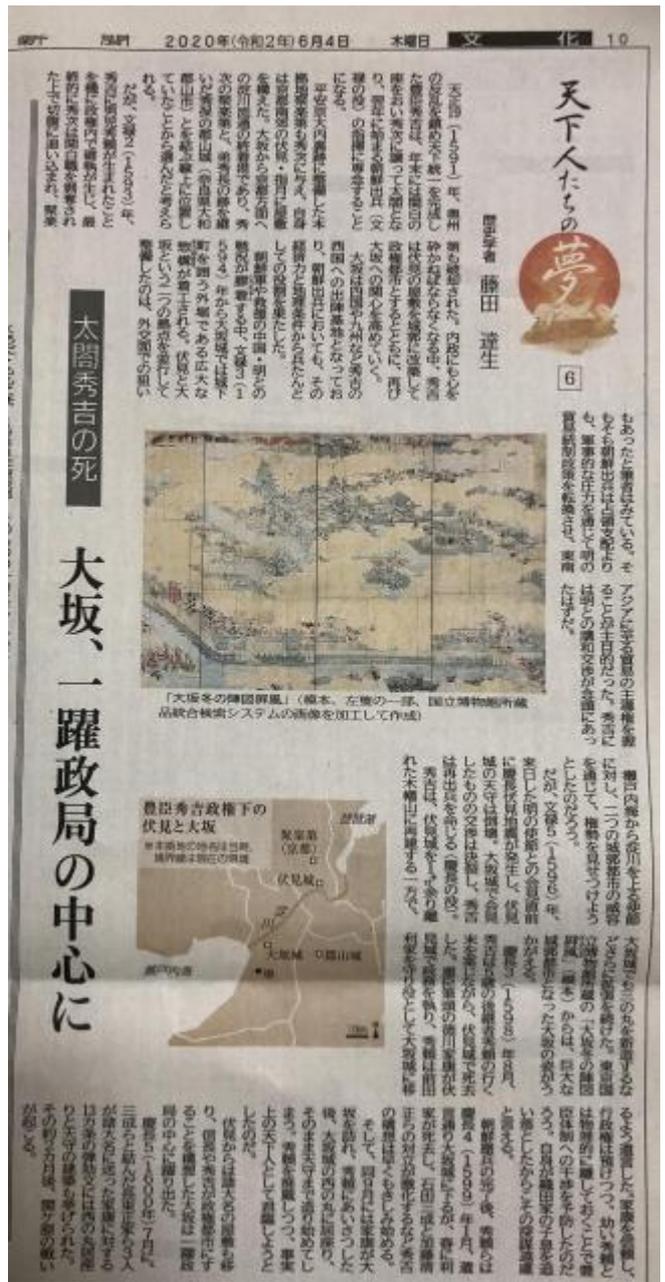
ただし、そのうち正室が跡取りをなしたのは3人しかいない。

後継者作りは、それほど難しいものであるらしい。 西山

○大石コメント

大石よりこんばんは。

今、ハヤト（隼人）壬申の乱辺りを探って（さるく）います。中村修くんのお兄さんかもしれない明蔵さんの『隼人の古代史』（Amazonで469円で新古本）書きました。



例の霧島の情報誌を買って見たい特集（1冊の中の6ページ程）だけ切ってファイル化しています。そのうちスキャンか写真撮って送ります。

○6月6日 西山アンサー

『隼人の古代史』 よいタイミングで購入されたようです。隼人情報を待っています。

○6月8日

おはようございます 大石です。

ちょっと長いタイトルの鹿児島（歴史）シリーズが又、（人気があるのか？新聞社がお気に入りなのか？）桐野作人氏作で始まりました。

他にも郷土史家はいますが時代を通して詳しいのはやはりこの人なのかなと思うところです。

もっとも今ぼくが彷徨っている6.7世紀のころのハヤト（薩摩隼人）の古代史はあまり得意ではないでしょうが。

○西山アンサー

一読して、このシリーズは桐野作人氏の代表作になるのではという印象を受けました。

私が今まで読んだ著作に比較して、肩ひじ張らずに書かれていると感じました。

それだけに、今後を楽しみにしています。

○クマタツアンサー

南日本新聞は私たちが惹きつけるようにいいタイミングでいい記事を出してきますね。

私があと10年若ければ、薩摩街道・出水筋をせめて県内だけでも歩けたかもわかりませんが……。

今日の記事の中で肥後の三太郎峠が出てきましたが、私はこれまで一つの峠で名前が「三太郎峠」と思っていました。昔々、その昔、一回だけ3号線の三太郎峠をバスで通った記憶がありますが、峠がいくつだったのかの記憶すらありません。クマモト

○西山コメント

添付の地図でよく分かりました。ありがとうございます。

○森繁コメント

三太郎峠といえば、今か50年ほど前、南国交通観光川内営業所に出向していた時、中学校の修学旅行の添乗で川内を出発してまず最初のトイレ休憩場所が一番手前の津奈木峠の津奈木茶屋という今でいえばドライブインだったことを思い出しました。高速ができる前は良く寄っていましたが今は利用者も少なくなっているのではないのでしょうか。懐かしい思い出の峠です。森 繁

○肥後のみち（水俣一人吉一八代）鉄道かマイカーか？どこに一泊するか？チェックポイントは？薩摩の古代、中世、維新.明治一との絡み...悩みますね。クルマなら森さんと3人でいきますか？この前、西くんが来て興味を持ってたけど歴史への関心、どうなんですかね。まだ和枝さんの方が関心はあるのかな。



○ぼつぼつ神輿を上げてもいいですね。私もそう思っていました。

気軽なのは3人でしょうが、コースにもよりますね。肥後のみちからでしょうか。ただ「水俣～人吉～八代」は、この順路だとJRは繋がらないようですが。そうなれば、車でしょう。宮崎は永野さんも行く気満々でしょうから誘いましょうか。私はどちらが先でもいいです。

○和枝コメント

国道3号線沿いの街道 国鉄鹿児島本線で下関。小倉を主人の転勤で 鹿児島と往復していました。30回以上はしたと、おもいます 佐敷の宿...アレ子供が、小3 小2 の時、親子三人で、帰鹿 する途中 大型台風の中、鹿児島本線が、不通、になり、佐敷駅で立ち往生 列車ごと駅で①泊したこと思い出しました 佐敷の街が薩摩街道の重要きてんだつ たんだー50年経った今 知りました 息子に尋ねたら、あの時 三角のノリで巻いたおにぎりもらったね。覚えていました。懐かしい出来事あった街です ② 今回の連載 楽しみです。ヨロシクお願いします ③ 永野 和枝



○配信感謝です。

街道をたどる...歴史をたどる に通じますね^^

健脚でなければ 旅の楽しみを味わえない古道散策で思うことでした。

長崎 諫早 森永

○久しぶりにパソコンの前に帰ってきました。

永野さんの懐かしい映像をはじめいろいろの情報を有難うございます。

まだ出歩くには不安がいっぱいです。何とか切り抜きたいものです。

どうぞお体お大事に。では また。

吉田 節

○なぜ、街道が「街の道」なのか？

街道、ウィキペディアで検索してみたら

結構 いろいろ書かれていました。

街道（かいどう）とは、日本における古くから存在する陸上をつなぐ交通路・道路のことである。

つながる場所としては街・集落であることが圧倒的に多いが、一方で人里離れた神社・寺院であることも多い。 西山

○クマタツアンサー

「街道をゆく」はそういう観点で書かれたのですね。

かすかな記憶では海にも道を想定したことが一部あったような気がします。当然のことでしょうが。

『日置市立永吉小学校創立 150 周年・坊野小学校統合 40 周年記念誌』完成

○朝から梅雨空が広がり外出が億劫なため家で過ごすことにしました。

さっそく先日送っていただいた本田様の母校の記念誌を開いて今（3 時間？）読み終わりました。先日届いてざっと目を通して、大まかな感想をお伝えしましたが今回じっくり読んで記念誌の充実感に感服しています。

7章8章の「あの頃の思い出」は同窓誌ならではの「それぞれのセピア色の記憶」がとりわけ昭和 27 年卒業（現在 80 歳）の方の作品が多化、同年代でもあり自分達の同窓誌のような気持ちで読ませてもらいました。

ふと、引がかかったのは外地からの引き揚げが多いのは一緒ですが私達（大龍・清水小）はほとんどが満州（中国東北部）なのにそちらは台湾が多いですネ。私達は残留孤児と紙一重でした。

永吉の歴史ものもさすが本田様の編集だと思いました。野田幸敬さんの「百五十年前の永吉」から「歴史散歩」の本田様の作品以下、充実してますね。記念誌としてももちろん充実していますが永吉郷土史としても保存価値充分と思います。最後に引がかかってしまったことを書きます。

12 章の胸元光盛氏言っておられるコメントです。…永吉地区から「山神の郷公園」がなくなれば、何が残るのか考えて欲しい…と。私は公園に行ったこともありませんがこの言葉がいちばん胸に残りました。

そして次のページに本田様が書いています『山神の饗宴』の火祭り（文を読むと県内でも有数の火祭りとのこと）といまや全国区の人気の豊久を何かで絡ませて全国ネットの SNS を利用して大掛かりなイベント（例えば能の薪能）を考えられないか？これは次の永吉南郷会のテーマにされたら。…私の読後感想でした。

6月11日 大石けいじ

○本田哲郎より大石慶二、隈元達雄、古市 庄八郎 様

記念誌を読んでいただいたそうで、また大石様は「完読」されたとの事、ありがたい事です。

南九州の片田舎の小学校の記念誌であります。皆様にとっては、永吉の歴史や永吉島津家のことなどもあり、小生の「近況報告」を兼ねてお送りした次第です。

各地の知人や友人の方々、または各地に散らばっている永吉小の卒業生関係者などから、このところ連日、電話・封書・ハガキ・メールなどで、皆さんからメッセージが届いておまして、編集にあたった者として、大変に嬉しく感じています。お寄せいただく御感想も、好意的言葉が多く、ほんとに苦勞の甲斐があったと感じています。

大石様の御指摘の「豊久と関ヶ原」を書いたら良かったのということ、それも考えましたが、そこまでこの記念誌の性格上、「郷土史」に深入りすることが、余りにも編集長の「独断と偏見」とみられるのではということで「没」にして、永吉の「史跡紹介と今昔物語」に落ち着いた、留めた経緯があります。

さらに、御提案の「山神の公園」での「豊久関連のイベント」開催ですが、なるほどこの公園には野外舞台もあり、広い敷地もあり、この種のイベント開催には最適任の場所ではあります。



ところが、自分はもう、永吉南郷会の会長を退いた立場であり、現会長や執行部などは、そのようなイベントをやるという意欲や意識を持っていません。ただ、ひたすら「史跡や島津家の墓地などの維持管理」に執着しているだけです。

小生が会長時代に行ってきた、大分市(島津家久関連)や上石津町(関ヶ原合戦後の「敵中突破」の豊久関連)などの友好都市との盟約関係も最近では希薄になりつつあります。

宮崎市(佐土原町)やいちき串木野市(島津家久が若い頃、城主であり、豊久の誕生地)などは「豊久生誕450年」を記念して、昨年からいろんなイベントを行っています。肝心の当地の永吉では、これらの「動き」すらありません。小生が会長時代に「開発」したとは大袈裟ですが、このような「外部」に対しての歴史の史実を盛り上げる雰囲気は欠けてきているというのが現状です。

自分としては、当地としては、初めて大分の方々(島津家久の「戸次〔へつぎ〕川の戦い」との民間交流を進めて結果、向こう側〔大分市〕から友好都市の盟約を図られて、今もその盟約を結んでいるのですが、現執行部は、これに対して余り積極敵に交流を深めることはしていませんし、その意欲もないようです。

したがって、小生が会長を辞任してからは、大分の「大野川合戦まつり」(今は戸次川の事を大野川と現地では呼んでいる)などには、自分は「個人として」参加している状況です。

胸元氏は今、永吉地区公民館長の立場であり、公民館が管理・運営している「山神の公園」(どこにもある物産館や食堂、子供公園、グランドゴルフ場、さらに野外舞台などの施設もあり)であることで、彼は、ここの活用が最も大事である立場で言っている事です。

確かに「山神の響炎」は毎年欠かさず、今年で18回目を迎えます。記念誌に小生が書きましたように、小生が帰郷後にはじめて大分の小国町の「火祭り」を見学に行ってから始めたイベントであります。

歴史は浅いですが、今やこの付近での「秋の風物詩」とも言えるほどに、恒例化しているイベントです。

それだけに胸元氏は、「山神公園」をがいかに大事かと想っているという事でしょう。

いろいろの御指摘、ありがとございました。

自分としては、これほど、島津宗本家からみれば、分家の永吉島津家ですが、平野耕太〔ドリフターズでの島津豊久を紹介〕や宮下正樹〔家久の紹介〕などの漫画や劇画などで全国の「戦国武将」人気を盛り上げていただき、当地永吉を訪れてくれる全国の歴史愛好家が多くなっているだけでも、嬉しいと感じています。

いちき串木野市などは市長を挙げて、市の職員を専任にして、島津家久、豊久を宣伝して、明白に「観光地化」を目指す事を広言している始末であります。ここは最近活発にこの啓蒙運動を開始しています。〔3年前から「豊久誕生祭」などを毎年開催しています。〕

以上のようなこちらの見解です。まったく後ろ向きな考えですが、今の小生の立場では、史跡を訪れる方々を暖かくお迎えして、じっくり島津家を語りましょうという立場です。

以上、記念誌に関しての御意見まことにありがとうございました。自分の所見を述べさせていただきました。

20209, 6, 12、 本田 哲郎

○森です。6月12日

県が旅行券1万円分補助するらしいけど、宿泊先は県内に限るとのこと残念でした。

ところで西南戦争の時西郷軍の本陣となった永国寺の楼門と境内にある幽霊池と幽霊の掛け軸は一見の価値ありでしょう。

○大石アンサー いろいろ行きましょう。

ホテル宿泊助成金はその地区(人吉市)に聞いてみる。人吉市のHPを覗いてみたらどうかなあ。



○隈元コメント 旅行券の件はほんとに残念！

そのうち、国が県外向けなど続々と出して来ることを願いましょう。

これまでも一緒に行動しているし。和枝さんも是非誘いましょう。

永国寺はどんぐりの会の旅行で昔一回行ったことはあるけれど、(まだ福祉バスを知らず、バスツアーに便乗でした)幽霊の掛け軸は覚えています、こんな立派な楼門があったのは覚えていません。是非行きましょう。

人吉の訪問先案などもぼつぼつ作ってみましょうかね。できたら皆に見てもらいます。 クマモト

○旅館は「鮎の里」のことですね。楽天で見ると、夏の基本料理で1泊2食3人部屋で税込@15675、@17765、@22990です。

料金が違うのは部屋の格の違いです。すぐに予約する必要はありませんが、決まったらそうしましょう。

1泊朝食のみというコースもあります。その場合は夕食は当然飲食店に行かなければなりません。

例年7月10日頃には梅雨明けですが、一週間の天気予報を見て天気晴朗なれば、いつでもいいですね。 クマモト

○宿ネットで見ました。旅館はどちらもいいですネ。九日町(歴史館と川を挟んで向かいの)の宿が便利かな?『井戸のある地下室』は必見。出来たら清兵衛の作家のお医者さんに面会したいですネ。アポ取れないかな?

和枝さんも行きたいかもね。男3人と和枝シングル(寝る時だけの)でいいのでは?

4人が賑やかな気もしますね。七月頭はどうでしょうか? 梅雨はいつ開けるのかな?

○おはよう御座います。

この、メンバーだと、頼りきって、また安心してついていきたいです。楽しんでしています。ヨロシクお願い致します。

何か書類をださないといけないときはおしえてください。

○人吉にある、相良藩の跡、訪ねたことがあります。知識もなく見学したものでした?今回は、予習の資料などいただき、今お勉強中です。学生時代これだけシゴカレテみたかったな。(^.^)

いつも いつも優しくしていただき、うれしいです

私もこのメンバーだったので、疑いもなく参加させて、もらいました

○二通のメール受信しました。

現在、「人吉の旅 訪問先案」作成中です。

「大村横穴古墳群」は、皆さんの興味がないかと思って除外していましたが、駅の近くということで探しやすいそうでもあるし、一応、案にいれておきましょうか。 クマモト

○今日西山氏から送られてきた『西山レポート』は興味深いものだった。米国の流通業会の新型コロナ対策のいろいろを学ぶことが出来た。ぜひ一読を。PDF 添付は今月の38号「歴史通信」の添付資料で送ります。早く読みたい方は…と言ってもこれが送られないと読めないのか?

○6月15日

鹿児島島のコロナ発症で県外に行けなくなるかと(県外の人に嫌がられる)と思って一時心配しましたが、今のところ、その後の発症者もなく小康状態でひとまずホッとしています。

さて、人吉限定ですが、訪問先案をつくってみました。ご意見をお聞かせください。順路などはこれからです。

「西南の役」は一部入っていますが、これも人吉限定です。「清兵衛と千手の局」は内山観音堂のみは入っています。案は2枚になっています。地図は適当なものを入れました。

ただ、これは「人吉」限定であり、大石くんから提案のあった「島津vs秀吉」「肥後の熊襲」「豊久関係」「三太郎峠」「出水の感応寺」はこれからの立案になります。

ただ1泊2日で、人吉の他はどういう順路にするか、割愛するかこれから皆で考えましょう。 クマモト

○雨 雨 の毎日



コロナでお家時間に、夏野菜植えましたので、雨も □降った方がいい？ 温泉に行ったり、梅干しやらつきよう、保存食作りに忙しくています(わたしいちよう)主婦やっています🙄

この度は、人吉方面に、小旅行...このメンバーに、惚れています。紅一点？ですが、お供したくなり参加しました...ヨロシクネ

人吉は何度となく、訪れています。特急や新幹線を乗り継ぎ、ぐるりと一周南九州の旅に季節ごとに行きました。私もご近所さんを連れて添乗員になって連れて行ったこともありました。人吉が乗り継ぎ駅だったので何度も、下車して、あそこの、栗弁当買うの楽しみでした。今回ハ期の歴史好きの仲間なので、内容の濃い旅が出来そうです。よろしくご指導ください。また 日時たどきまったら、教えてください。楽しみにしています。 永野和枝

○大石翁

隈元くんは出水の感応寺に行きましたか？武家屋敷は？もし行っていたら出水はパスして伊佐、えびの市方面などで戦国島津の誰かの遺跡・寺、神社、居城などがあつたらそっち周りでもいいかもしれませぬね。

朝発ちでしょうから何処かに寄ってから行くとか？三太郎はやはり帰りでしょうか？司馬遼太郎は『街道をゆく...肥後のみち』では人吉から薩摩へ、その境目をクルマで越えるシーンを描いていました。そうそう、本お貸ししましょう。中村明蔵氏の『隼人の古代史』もあります。読み終えましたので。

○隈元コメント

出水の武家屋敷には2回行きましたが、感応寺には当時は興味がなく、行っていません。

感応寺はまた行けるので、今回はパスしましょう。

伊佐、えびの市方面は、伊佐は新納家関連の墓地や忠元公園(新納忠元)があるのと、西南戦争のゆかりの地があるようです。えびの市は「木崎原古戦場跡」「加久藤城跡(義弘夫人)」、「飯野城跡(義弘居城)」、「歴史民俗資料館」などがあります。今回は伊佐はやめてえびの市にしたらどうでしょう。高速を途中で降りて。 クマモト

○森コメント

えびの市飯野は母の故郷なので何度も行っていますが、飯野城には一回も行っていませんので是非行ってみたいですね。現在飯野には西日本新聞の記者をしていた従兄(母の兄の息子)が一人で悠々自適の生活をしていて郷土の歴史にも詳しいので会って話を聞くのも面白いかも知れませぬね。また同じ町内に従兄で映画監督をしていた黒木和夫(故人)の実家があり、映画「美しい夏、キリシマ」のロケ地として使われ現在えびの市の有形文化財に指定されている古民家(無人)を見学するのも一興かと思います。コースとしては人吉からの帰途、えびのICで下りて15分位です。

○森くんの話は願ってもないことですね。

そういうことを含めてえびのプランを独自につくってみましょうか。

そして、全体の旅程の中で行きに組み込むか、帰りに組み込むか決めましょう。 クマモト

○いい案です。

隈元くん！例の家久浪党が永吉に移るとき何名かとどまった地区はこの近くではなかったでしたっけ？

○永吉島津家の飛び地は小林なので、「えびのインター」から宮崎自動車道に行って一つ目が「小林インター」です。

人吉方面に行くには熊本方向を目ざさないといけないので、小林インターから九州自動車道で引き返すことになります。距離は大したことはないのですが、可能ではありません。 クマモト

○6月16日隈元コメント

年12月がえびの市50周年のようですね。

そうすると、6月10日の黒木和雄様の実家の建物保存の打ち合わせは今年のニュースですか。

是非、行って外からでも見てみたいものです。

「えびの市訪問先案」を作りつつあるのですが、今日は午前中、歯科でギーコギーコでしたので、疲れが出て休止中です。しばらくお待ちください。 クマモト

○私も昨日まで2か月にわたって17回豎馬場の義川歯科にに通院していました。来月の15日まで抜いた歯1本の歯根が固まるまでお休みです。現在29本歯が残っています。

ところでえびの市の黒木邸の記事は今月のことです。母の2番目の兄が養子に入ったところ。外は自由に見られますよ。この家は昭和の初めごろ、叔父(黒木親慶という人)が関東軍の将校をしていた時、ロシアのセミヨノフ將軍という方を招待するために作った屋敷と聞いています。屋敷の前庭で將軍と一緒に写した写真を見たことがありました。

○6月19日 遅くなりましたが、えびの市の史跡訪問先案をつくってみました。

ご検討ください。

えびの市の訪問先案

○木崎原古戦場(きさきばるこせんじょう)

元亀3年(1572)5月3日夜、日向の小林城から伊東義祐(よしすけ)の重臣・伊東祐安(すけやす)以下3000余りの将兵が出撃した。貴久の死で島津家が動揺しているのにつけこみ、日向から島津家の勢力を排除しようという動きである。一方の島津家は飯野城に義弘がいたが、兵力は飯野城に300人、加久藤城に50人という兵力だった。しかし、ここに至り「木崎原の戦い」は始まった。義弘は10倍の敵に臆することなく果敢に出撃し撃破した。

○加久藤城

島津氏の宿敵の日向伊東氏と結ぶ北原氏の属城であったが、島津貴久が攻略する。貴久の子・義弘が飯野城に入ると、飯野城に近い加久藤には城代を置き、義弘の妻子を住まわせた。元亀2年(1571)に貴久が没すると、肥後八代の相良義陽がと結んだ伊東義祐が奪還を図ろうと軍勢を送り込んできた。このとき義弘は飯野城から打って出て、加久藤城を攻めあぐねた伊東勢を急襲すると、木崎原で壊滅させた。この戦いで日向に勢いを誇った伊東氏は多くの将卒を失って、やがて衰退していくことになる。

○飯野城

ここも北原氏の居城であったが、北原氏滅び島津家の所有となり、義弘の居城となる。義弘は30歳から56歳まで26年間ここを居城とし数々の合戦に出陣した。木崎原合戦で伊東義祐に大勝したあと、天正6年(1578)兄、義久らと高城合戦で豊後の大友宗麟の大軍を破り、勢いに乗った島津軍は肥後の相良義陽、肥前の龍造寺隆信らの軍を次々と破り、九州をほぼ制覇した。

天正15年(1587)義弘の嫡男・久保の居城となるが、久保は「文禄の役」に参戦中に文禄2年(1593)病没した。それより前、天正18年(1590)6月義弘は栗野の松尾城に移った。しかし慶長20年(1615)一国一城令により廃城となった。

○黒木和雄旧邸

森くんの従兄弟さんで映画監督だった黒木和雄(故人)さんの実家。

近々、手入れをされる話がある。

☆彡 番外編 小林市 ①永吉島津家飛び地 小林市提

②小林地頭仮屋跡(名越左源太 在

番地)真方

○森アンサー

加久藤城址も木崎原古戦場跡もえびの IC から10分くらいの所ですから、巡るとしたら「えびの IC～加久藤城～木崎原古戦場～従兄弟宅休憩(秋丸信夫宅)～飯野城跡～黒木邸～えびの IC」の順で回ったらそんなに時間はかからないと思われます。

○えびの方面は、森くんのお任せです。

日程は梅雨明けとすると、7月20日前後でしょう。

ただ去年は24日に明けています。話し合って決めたら、すぐ宿の予約をしましょう。 クマモト

○6月19日永野アンサー

県境を、またがっても良いと発表がありやれやれ、私達の小旅行もますます熱がはいりますね！えびの方面まで行けるようで楽しみにしています。島津四兄弟のあらずじも、私の中で太くなっていきます。歴史って奥が深いですねー予習もでき、パッチリです！

高速で行くと トンネル(40個以上)あるトンネル数えるのも大変ですが、一番長い、加久藤トンネルがえびの市のあたりだったんですね👀 標高もだいぶんありますね？ スケジュール表ができるの楽しみでーす。ヨロシクお願いします🙏
一泊で足りますか野宿しましうか？ 永野 和枝

○確かに梅雨明けを待っていると暑くもなるしなあ！それに夏休み前がいいということもあるしなあ。

見切り発車で早く行ってもいいでしょう。

1週間の予報は出るので雨の少ない日は予知できるでしょう。

○永野アンサー-着実に進行して.....気持ワクワク

天気予報のよか天気の方がいいですね👀 皆さんかの意見に賛成します

○隈元アンサー

私もいつでも空いています。

ただひとりの稼ぎ手・大石くん次第です。(笑)

いつでもいいですよ。クマモト

○森アンサー

私もいつでも OK です。黒木邸取材した Utube 動画あったので添付してみました。

○クマタツアンサー

凄いねえ！

感動しました。

ほんとに「知覧の武家屋敷」と同じ仕掛けがあったりで、文化財ですよ。

これからグラウンドゴルフに行ってきます。

○6月21日大石翁

訪問地は人吉市とえびの市で決定。旅程と訪問地は隈元くんお願い、お任せします。なお、日程は第一か第二の月火水の一泊で天気予報で雨が降らない日にしましょう。協会イベントが木曜日から土曜日に入っていますので。人吉の旅館の予約も決まったらお願いします。

月末から8月の火水木曜日に2泊(1泊でもいい)中間氏も一緒に『日向八期歴史小旅』に行きましょう。これからは2か月に1回あちこち回りましょう。

○それで最終計画をたててみます。

現在、これまでの訪問先計画案をチェック中です。

当日、新しい資料(西南戦争のルートや人吉での様子など)も加えて整理しコピーして全員分を持参します。
これまで私が添付した資料も全部です。

心配は天気と宿の予約の件です。

「季の杜 石庭」は7月の空きはほとんど無くなっています。

「翠嵐楼」は3人一室10畳で税込@15400円と12650円が7月6、13、14日はそこそこ空きがあります。

一週間前にしか天気がわからないので、その時に部屋があるかわかりません。熊本県も鹿児島県みたいな優遇措置をしているのかはわかりませんが、その他の旅館・ホテルなら何とかなるでしょう。

ご意見を聞かせてください。

クマモト タツオ

○森アンサー

ご苦労様です。宿泊の一案として、ホテルシングルを4部屋として夕食は外食でというのはどうでしょう。

ちなみに球磨川河畔にあるサンホテル人吉は朝食付き7500円程度で近くには郷土料理のお食事処や名物のうなぎ屋もあるようです。7月13日はまだ空きがあります。皆さんの意見がまとまれば予約は小生がしてもいいですよ。

○クマタツアンサー

この際、森くん案がいいかもですね。

和風旅館であっても、永野さんのことは同じような条件でひと部屋確保しようと思っていましたので、

心配は要りませんよ。(料金は少し割高ですが) クマモト

○大石舜

それぞれビジネスシングルプラス外食(郷土料理屋)で僕もOKです。

高速道路以外はなるべく旧道(史跡があればそこだけ寄ってもいいけど)を行きませんか？

もっとも時間がかかり過ぎるのもなんですが。

○22日クマタツアンサー

森くん

ビジネスで適当なところで予約をお願いします。もっとも日程がきまらなければどうにもなりません。

何しろ何時大雨になるのか、ならないのかわかりませんからね。

大石くんの提案の旧道は私も賛成です。

そうであれば、まず第一に湧水町の栗野城(松尾城)はどうでしょう。

義弘が5年間在城し、この城から朝鮮の役に出陣したそうです。

その手前の加治木や国分の史跡は手近なので行く機会はあると思うのですが、栗野は遠いですからね。

○森アンサー

帰途はえびのICから高速に乗らず、えびのから栗野まで旧道で行って松尾城を訪ねた後、栗野ICから鹿児島に向かうコースがいいと思います。ホテルは13日で予約してみます。

○森アンサー

今回の旅行の実施日を梅雨明けの7月20日(月)人吉の宿泊先を「ホテルサン人吉」予約しました。男性3名はトリプルで永野さんはシングルで予約してあります。宿泊料金はトリプル1部屋17,580円、シングルは7,150円です。朝食は別途940円必要となります。夕食はどこか旨そうなところを探しましょう。

なお、支払は当日フロントでの支払いとなります。予約のキャンセルは7月18日までは無料です。

残念ながらホテル内に温泉施設はありません。

○森くん ありがとう。

あとは大石くん次第で最終決定としましょう。

クマモト

○永野アンサー 森さん お世話になります。了解しました。ヨロシク

○大石発 6月22日16時

『人吉えびの市歴史旅』7月20日出発OKです。大石。

○大石発

近くに温泉もあり、歴史館屋武家屋敷も歩いて行けそうですね。だんだんスタンバイです。先日は甲突川の源流まで西さんと行ってきました。川路総警視生誕地から丹後の局のお墓と掛けた石など...又、十三塚原から越前島津家の墓池がある紹隆寺にも行ってきました。隈元くんも誘おうか？と言ったのですが「二人でえが」と西が言うのでそうしました。

下はサンホテル人吉の案内サイトです。

○クマタツアンサー

温泉は近くにいろいろありそうですね。

永野さんも温泉を楽しみにしているようだし、よかったです。

丹後局関連は行きましたが、他はこれからです。

郡山方面は史跡が山ほどありますね。数年前にだいが歩き回って、最後に郡山温泉に浸かって帰ったことがあります。

まあポチポチ行くことにします。 クマモト

○6月23日

太石製作『郡山史跡巡り2020』

西 照晃くんの案内で1日ドライブツアーをどうぞ。

<https://youtu.be/V5fnnNq2oG4>

西山発 大石製作動画『郡山歴史紀行』YouTube を観て感想。

小さな旅を観るような面持ち映像が素晴らしい

丹後局の墓に、驚きましたあって、当然でしょう

重豪が建立とか重豪はやはり、凄い人です

島津家累代 最高の人でしょう。

幕末・明治維新に活躍したお歴々に直接間接に、大きな影響を与えました。

極めてスケールの大きな開明で、女性から好かれた人でした。

西山 和宏

○梅雨時でちょっと湿った感じの緑の苔や石段なども動画できれいに撮られていますね。

こうして見せてもらうと、まだまだ県内でも「溝辺十三塚史跡公園」「越前島津家の墓」とか「南泉院」とか行っていないところが多いです。

これも寄る年波との戦いですから、今後どれくらい訪問出来るかわかりませんね。

まあ、じゃっどんポツポツ行っもんそかい。 クマモト

○県内に名所旧跡が多いことに驚いています。

クマタツさん 訪問できるうちは元気に過ごせます。

冥土は、その先のまだ先、遥かに遠く その先です。

○森永コメント

大石さん 西山さん 隈元さん

いつも配信感謝です。

島原大変 肥後迷惑 高山彦九郎様にも影響があったのですね

島原半島での噴火被害 甚大だったようで 慰霊碑あちこちに残っています。

参考までにお届けします。

この近くに二本木神社がありますが ここは薩摩藩島津・島原半島有馬連合軍と佐賀竜造寺軍との古戦場 竜造寺滅亡に至った古戦場の地。後日紹介したいと思います。 **長崎 諫早 森永**



○クマタツアンサー

森永さん

「島原大変 肥後迷惑」という表現は短い言葉で当時の混乱ぶりをよく表していると思います。これ以上の表現はないですね。

先年の雲仙普賢岳の噴火の際には、私たち楠声会は3回島原市にチャリティー演奏に行きましたが、そのうち2回、大村市にも行きました。

その2回目の大村演奏会の時に森永さんがホールに駆けつけてくれましたね。

私が演奏会の連絡もしていなかったのに、ポスターを見て聞きにきていただいたとのことで大変感激して元気が出て歌ったことを昨日のこのように思い出しています。

その後もプライベートで長崎に行く時に熊本からフェ

リーで島原を目指したことがありますが、今日の写真にもある普賢岳がいつも迎えてくれます。実は今年の3月26日にも同じルートで島原から長崎に抜けましたが、普賢岳は穏やかに迎えてくれました。

森永さんの予告にある「龍造寺隆信」と「有馬・島津連合軍」が戦った「沖田噺の古戦場跡」のレポート楽しみに待っています。

この3月にも行きたかったのですが、大雨だったので長崎に急ぎました。

いつか、その古戦場や原城跡に行きたいと思っています。

○隈元さん

そうでした 楠声会の発表会 皆様の元気さに感動でした。

島原市長を永く勤められた吉岡先輩とのご縁で 楠声会のことは知っていたのですが公演・お聞きするのは初めてでした。隈元さんはじめ 皆様の澆刺とした元気なお姿 素晴らしいコンサートでした。

長崎 諫早 森永



○6月23日

大石 慶二、隈元 達雄、古市 庄八郎 様

高山彦三郎が「野間の関」で難渋した事について、大石様からお知らせいただきました。

もう4年前になりますか、永吉南郷会の研修旅行〔2年に1回実施〕の一泊旅行で、薩摩川内市の国分寺跡、泰平寺〔豊臣秀吉と島津義久が和睦した場所〕、さらに出水武家屋敷群、そして「野間の関所跡」なども訪問しました。その後、熊本の「日奈久温泉」に一泊して、天草列島をドライブして、最後は船で長島町に渡り、帰途につきました。その研修旅行の時、「野間の関所跡」も見ました。

戦国時代から薩摩島津家は海外との貿易を密かにやっており、江戸幕府などからの偵察などが横行していたことで、藩境いの出水の関所などは特に、嚴重な喚問が行われていて、なかなか「よそのもの」が侵入するすることができなかつたそうです。

この典型的で象徴的なことは、「薩摩弁」(カゴンマ弁)が、この関所では存分に使われて、「よそ者の発見」に大変な効果があつたと伝えられています。

日常的には使われない難解な「カゴンマ弁」で質問されて、うまくへん応答・返事ができない人は関所では通過できないと言われていたそうです。

それほど、当時の薩摩藩は他国の人が、薩摩に入ることを警戒していたという事でしょう。

この辺にも、島津家が770年の長期にわたり、薩摩を統治してきた理由のひとつ(〔海外貿易で繁栄した〕)になりましょう。ここでは、薩摩藩〔島津家〕の「したたかさと周到さ」を強調できうと思います。

先だって、当方で勝手にご送付しました永吉小・坊野小の「記念誌」について、お三方とも具に読んでいただいたそうで、ありがたい事です。

南九州の片田舎の小学校の「記念誌」ですが、小生も創立150周年記念事業の一環だということで、「これは地域住民の「誇り」である。何とか地域挙げての協力体制を堅持してこの記念事業に邁進すべきである」

との考えから、小生も、この事業にお手伝いをやらせていただきました。

とい言うのは、最初、学校当局とそのPTAの役員などが発案してスタートしたこの記念プロジェクトでしたが、実行員会の立ち上げが、あとからであり、事実上の地域のリーダーである地区公民館各部や自治会長会などの方々の折衝がほとんどなくて、これらの地域の主な機関が有効に作用せず、なかなかうまく運営がされていませんでした。そこで、結局、記念誌に編集長を依頼されて、自分も協力する事となり、この一年近く、この記念誌に没頭しました。

編集委員のRTA側からの若いお母さん方からみれば、年寄りのガンゴジジイの発言が目立ちましたが、多くの貴重な浄財を予想をはるかに超える募金としてご協力いただいた卒業生のためにこそ、この記念誌の意義があるだとの見解で編集に当たりました。

最初はB5版でページ数も58の予定でしたが、寄付金が590万以上も集まりましたので、記念誌に予算を増加する事にして、このようなA4版、200頁の厚い「本」となりました。

最初は、現在に小学校の児童中心の記念誌のようでしたので、これを150周年記念にふさわしいコンセプトを主張して、過去・現在の永吉情報と地区の写真〔史蹟・風景などを存分に入れることとしました。

また、座談会なども企画して、自分で人選し、余り地域で目立たない方々を選びましたが、それが功を成したようでした。

結果としましては、古市様からご指摘がありましたが、「記念誌コンクールがあれば、必ず上位にランクされるでしょう」とのお言葉に代表されるように、各地の卒業生間もとより、皆様方のような、地元とは関係ない自分の知人・友人の方々からも暖かい賛辞がいただけたことで、自分なりの老後に生甲斐のひとつにもなったかな？と感じています。

帰郷後、3年間の後に、自分の自宅前に聳える愛宕山(幼い頃は遊び、小学生時代はよく課外授業〔音楽、写生会など〕で良く登った)の登山道が荒れていたため、地元自治会を中心に、ボランティア作業で、登山道の再開発事業を立ち上げて、安易に登れる登山道作りを行いました。

頂上付近の雑木の伐採と木花〔佐倉・ツツジ・紅葉・〕山茶花などの植樹など〕を行いました。

この事と、今度の記念誌の編集が、自分としては、ふるさとでのひとつの「恩返し」になったのかな？と思っています。

お三方からのメッセージ、ほんとにありがとうございました。

ただ、ここで強調したいことは、この永吉小学校が創立150周年であるということですが、明治2年には尋常小学校が開校している事です。

あの明治維新直後の翌年には、この南九州の片田舎で小学校が開校したことは、やはり、当時の島津藩、島津家はほんとに優れた

「知恵ト決断」があったということでしょう。

「廃藩置県」ということ、つまり島津家からみれば、自ら今までで営々として築いてきた「武家社会の世襲統治制度」を廃止して、新たに「県」を置くと

言うことは、自分らの既得権を排して、「共和制の日本国」を新たに作る事ですね？！ それを主張し続けていた西郷や大久保を育てたのも島津家(加治屋町の郷中教育)ですし、彼らの運動・行動を観ていた[黙視]のも、島津斉彬であり、島津久光であります。

ご存知の如く、徳川政権を倒し、天下を天皇のもとに「共和制の国家」を作ろうとしたのです。勿論 徳川勢はこの維新も猛反対をして、長州・薩摩以外の大方の

それまでの大名達は、明治維新に反対でしたね？！

その「明治維新」をやり遂げた直後に、旧島津家が世襲制度で統治していた三州の島津家直轄地(本宗島津家はじめ23の分家筋)はこのように明治維新直後に小学校を開校しているという史実です。これは、鹿児島市内でも多くの小学校がありますが、明治維新すぐの開校された学校はごく少ないのです。

この辺にも、いかに薩摩藩が教育が大事か、今後の「近代日本のため」この小学校の創立となったのでしょう。

それまでは、ご存じのように、薩摩藩でも「郷中教育」で武士の男子(二七、18歳未満)をオセ(18歳以上の独身男子)が鍛える組織しかなかったのですから。寺小屋教育はあったでしょうが……。

そこに、島津家の「次代を視る眼に確かさと気高さ」を自分は感じます。

以上、「野間の関」と「記念誌に関する御礼」として、綴りました。

まだまだコロナ騒ぎは収まりそうもありません。くれぐれもご自身の健康管理を怠らないようにしたいものです。

ほんとに、いろいろありがとうございました。

それから最後になりましたが、古市さんから、「さつまの山城」シリーズの新聞切り抜きをたくさんいただきました。

ありがとうございます。おそらく小生が帰郷前の新聞掲載時期と思われる。良く勉強させていただきます。

残念ながら、当地「永吉南郷城址」の分が抜けていましたが、新聞社はこの種のシリーズものには必ず、掲載されているがはずですが……？！

現在は、旧知の国際大学名誉教授の三木靖先生などが、何度も探査に来ていただいています。 昨年は、鹿児島山城研修会に皆さんも 「南郷城址」を見学されました。

三木先生のお言葉ですが、この山城址は開発されずに、昔のままの土塁や特に「空堀のスゴサ」などは

自分の今後の最も興味ある「山城」のひとつであるとおっしゃっておられます。」

2020, 6, 24、 本田 哲郎

〇6月24日 森コメント

『人吉・えびの市歴史小旅』のプラン(行程表)作ってみました。

凡そのコースは次の予定でどうでしょう。

長田町-----吉野経由-----吉田 IC=====九州自動車道=====人吉 IC-----市内観光-----
-----ホテル泊-----旧道-----加久藤ループ橋経由-----えびの市-----秋丸邸-----飯野城
跡-----黒木邸-----地道-----栗野松尾城跡-----栗野 IC=====吉田 IC-----吉野経由-----長
田町

〇了解です。行きはなるべく早く出て人吉をたっぷり探訪しましょう。

○加久藤ループ橋を下ってきから2ヶ所抜けていました。

加久藤ループ橋———加久藤城跡———木崎原古戦場跡———秋丸邸———飯野城

○いいコース決まったね！！早寝(10時30分)早起き(5時30分)おじいさんは、今朝見ました。

えびの市周辺は義弘に関する史跡が多いようですね。臨機応変に行きましょう。 クマモト

○ 6月17日に西照晃さんとふたりで1日ドライブ『郡山方面』してきました。その日の一日を動画に収めYouTubeにUPしました。ご覧ください。 大石

<https://youtu.be/V5fnnNq2oG4>



比叡山(延暦寺)の関係があるかと思えば長野の善光寺にも。

○小さな旅を観るような面持ち映像が素晴らしい丹後局の墓に、驚きました。

あって、当然でしょう。重豪が建立とか重豪はやはり、凄い人です。

島津家累代 最高の人でしょう。幕末・明治維新に活躍したお歴々に直接間接に、大きな影響を与えました。極めてスケールの大きな開明で、女性から好かれた人でした。

=====西山 和宏

○梅雨時でちょっと湿った感じの緑の苔や石段なども動画できれいに撮られていますね。

こうして見せてもらうと、まだまだ県内でも「溝辺十三塚史跡公園」「越前島津家の墓」とか「南泉院」とか行っていないところが多いです。

これも寄る年波との戦いですから、今後どれくらい訪問出来るかわかりませんね。

まあ、じゃっどんボツボツ行っもんそかい。 クマモト

○県内に名所旧跡が多いことに驚いています

クマタツさん 訪問できるうちは元気に過ごせます。

冥土は、その先のまだ先、遥かに遠く その先です。=====西山 和宏

○大石さんへ 6月25日 古市コメント

郡山の史跡巡りや名城跡巡りなど拝見、ありがとう。

花尾神社は初耳でしたが、島津家初代創建の由緒ある寺院なんですね。

甲突川の源流初めて見ました。これが流れ流れて8.6水害に至った訳ですか。

あの時は丁度鹿児島赴任中でした、川の近くに店舗があったので、水害を免れるべく一晩中奮戦したものでした。

毛利元就の故郷である現安芸高田市は神楽が盛んで、市内に20数団(いずれも素人集団)あり、毎年東京の日経ホールで上演しています。いずれもスピーデイで迫力あり、見逃せない舞台です。現地に行くと、金糸銀糸のきらびやかな衣装を試着できますが、ずしりと重くよくこれを身に着けて動けるものだと感心します。市内には神楽客専用の宿泊施設もあり、毎夜開催される神楽を鑑賞できます。

月山富田城は島根県で勤務の折り(40年前)に見学しました。尼子一族や山中鹿之助などを偲んでいたら、冬場のことで突然大雪になり、大急ぎで下山した思い出があります。

女城主のいた岩村城跡に一昨年行きました。「100名城跡」に入っていたら楽しみです。

佐倉市 古市

○大石アンサー 6月25日

本田様からいただいた『永吉小学校記念誌』へ対して、古市くんからのお礼感想メールを読んだ本田様からの（長い）メールで貴兄の健在ぶりを知りました。お元気で何よりです。

長田中や玉龍の仲間たちの変わらない動向が気になる年齢になっています。

又、鹿児島に帰る機会があったら連絡ください。史跡巡りしましょう。

○東京の稲森浩一くんから便りがありました。

北見先生のご息さんから先生の本の贈呈を受けたとのこと……

○懐かしいですね。北見先生！

我が家に家庭訪問に見えてその時の私の学力を建物と滑車の絵を書いて、現状はどっちにでも引っ張られる状況だから、いい方に引っ張られるように頑張れと言われたことを忘れることはできません。クマモト

○私は、北見先生とは在学中にはほとんど話をしたことはありません。

でも、先生が朝日新聞で賞を獲得されてから頻繁に、時には毎月、中間・稲森くんらと北見会として愉快的時間を過ごしました。

以前、書きましたが、草野くん住まいから仲間くんと一緒に深夜、大泉学園の先生宅に押しかけたことがあります。

私の結婚式では、過分の祝辞をいただきました。卒業後、多くの示唆と助言をいただきました。

没後、随分年月が経過してからの出版とはなにか話がありそうな気がします。

「ことばの風土」先生より恵贈いただきました川は非常に面白いテーマだと思います。

欧州でも米国でもその他の国でも都市は99%川辺にあります。

欧州の城には、川を通行する船から税を徴収するために建てられたものが多いように思います。日本では、関宿など川辺に関所が設けられたものもあります江戸湾の入り口では積み荷の改めが行われ、江戸に運び込まれる物資が記録れ、江戸の物価の監視に役立てられました。

詳細に調べたことはありませんが、日本の城は川の東側に多い感じがします。

高度成長期に、その川を越えて西へ発展し東が衰退という現象があるように感じています。

幌馬車隊は西へ、サンダウナース。

先生存命なら、いろいろ伺ってみたいところですが「川の文化」の中に、いくつか答えが期待しつつ……

=====西山 和宏

解除されたとたんに関日2桁感染の東京。巣籠もり生活に逆戻りです。そんな矢先、恩師北見先生の息子さんから講談社発行で先生の研究著書が届きました。40年前、慶応から講談社就職活動に際し、推薦人になった時からの繋がりです。高校卒年次に北見先生のお陰で大学受験を思い直したことなど、先生没後、25年恩師を偲び、思い出しながら、ゆっくり読み重ねたいと思います。稲森浩一

